日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
愛知県支部
広報誌

日赤あいち

No. 148
2021.秋

▶青少年赤十字 コロナ禍2年目の試み

- ▶ 自宅から学べる幼児安全法
- ▶ 「献血ルーム フォレスト」オープン
- ▶ 赤十字救護班要員養成研修を実施
- ▶ クロスサポーターに聞く！ 名古屋西部ソイルリサイクル株式会社
- ▶ ボランティアリレー　蒲郡市赤十字奉仕団

※子ども新聞プロジェクトでの記事作成の様子

愛知県青年赤十字奉仕団 | 大治町赤十字奉仕団 | あま市赤十字奉仕団 | **蒲郡市赤十字奉仕団**

赤十字奉仕団
ボランティアリレー

ボランティアとして活躍する奉仕団がリレー方式で登場

愛知県赤十字無線奉仕団 | 田原市赤十字奉仕団 | 尾張旭市赤十字救急奉仕団 | 東海市赤十字奉仕団 | 半田市赤十字奉仕団

今号の奉仕団　委員長　足立 静慧

蒲郡市赤十字奉仕団

こんな活動をしています　こどもから高齢者まで地域に密着しています

蒲郡市赤十字奉仕団は、赤十字のボランティア活動を通じ地域社会をよりよくするために、各地区から選任された団員203名が活動しています。子育て支援活動として月に1～2回市内各小学校周辺などのパトロールや、地域ふれあい活動として「コロナ禍における高齢者のフレイル（生活不活発病）予防と食事」について講座を開催しました。そのほか、感染対策に十分配慮したうえで高齢者への支援として「いきいきサロン」を4回開催しました。

また、赤い羽根募金やNHK海外たすけあいの街頭募金を行っています。

イチオシポイント　こども食堂

地域の人たちとの交流によりこどもの孤立や非行を防ぎ、将来を担うこどもたちの食生活を応援する目的で活動予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で当初考えていた方法で開催することが困難になり、改めて情報収集を行いました。

市内で以前からこども食堂を行っているNPO法人の活動に参加させていただき、どのような準備が必要か学んだり、市外のこども食堂の見学や愛知県社会福祉協議会の研修会に参加したりして準備を進めました。

令和3年度も食事提供やレクリエーションでのこどもとの交流、居場所作り等の活動が難しい状況が続いています。そこで、こどもに食品を配布する形で行うことにし、カップラーメンやお米、お菓子等を用意し、定員20名として参加を募りました。宣伝活動の甲斐もあり、無事に地域のこどもたちに配布ができました。

今回は食品の配布でしたが、実際に自分たちで開催して反省点や改善点が見えてきました。今後の実施に向けてさらに工夫し、こどもたちの喜ぶ顔を見られるようにしたいと思います。

岡崎市赤十字奉仕団 | 日進市赤十字奉仕団 | 名古屋学芸大学青年赤十字奉仕団

津島市赤十字奉仕団 | 蟹江町赤十字奉仕団 | 弥富市赤十字奉仕団 | 愛知県赤十字救急奉仕団 | 南山大学青年赤十字奉仕団

活動資金

ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- ●株式会社八幡ねじ本社 様
- ●株式会社フェニックス 様
- ●ホッコー株式会社 様
- ●一般財団法人坂文種報徳会 様
- ●株式会社パロマ 様
- ●株式会社ミニミニ 様
- ●協和建材株式会社 様
- ●株式会社ニシ 様

ご協力をお願いいたします

赤十字事業は、皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

郵便振替口座／00860-1-732 日本赤十字社愛知県支部

郵便局備え付けの払込取扱票でお手続きください。ご不明な点は日本赤十字社愛知県支部事務局総務企画部赤十字会員課まで。

TEL 052-971-1596（直通）

PRESENT プレゼント

10名様に　**クロス防災グッズ 8点セット**

ブランケットやレインポンチョ、スリッパや携帯トイレなど防災グッズ8点セットです

応募先

MAIL aichi-koho@aichi.jrc.or.jp
FAX　052-971-1586
郵送　〒461-8561 名古屋市東区白壁1-50 日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

【明記事項】
①お名前　②郵便番号・ご住所　③電話番号　④年齢　⑤「日赤あいち」の入手先　⑥ご意見・ご感想など　**締切／令和3年11月30日必着**

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 愛知県支部　日赤あいち

〒461-8561名古屋市東区白壁1-50　TEL052-971-1591（代表）
発行元／日本赤十字社愛知県支部　発行日／令和3年10月1日

Twitter

活動の詳細や最新情報はウェブサイトかSNSへ
日赤あいち　検索
https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/

Instagram
NISSEHI_AICHI

クロスサポーターに聞く!!

Interview

日本赤十字社愛知県支部とタイアップし様々な活動に取り組む企業、団体、人物を紹介します。

No. 32
名古屋西部ソイルリサイクル株式会社
代表取締役社長　**松永 元秀** さん

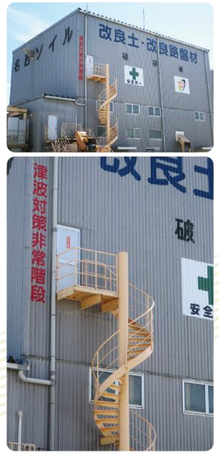
活動内容
建設工事で生じる建設発生土をリサイクルし、「改良土」「改良路盤材」「調整土」を製造・販売しています。令和2年度に愛知県支部が行った新型コロナウイルス感染症対策基金への寄付に続き、令和3年度も赤十字へご支援をいただいています。

地域と共存する会社として多様な社会貢献に取り組む

赤十字への寄付のきっかけ

弊社では「会社は地域と共存する」という考えのもと、社会貢献活動に取り組んでいます。愛知県や名古屋市の緑化推進事業、公園整備事業の活動支援や、地域での清掃活動、地元警察署と連携しての安全運転啓発活動といった社会貢献活動を行ってきました。

また、地域の自治体（弥富市・飛島村）と災害時支援協定を締結したほか、社員だけでなく一般の方も避難できるよう、会社建屋に津波の浸水被害からの避難用階段を設け、避難用備蓄品も確保するなど防災面でも社会貢献に取り組んでいます。



会社建屋の避難用階段

日本赤十字社への寄付は、昨年、新型コロナウイルス感染症に対し何ができないか考えていたときに、緊急対策のための基金募集をしているとホームページで見たことがきっかけです。最前線で新型コロナウイルス感染症対策の取り組みを行っている赤十字の活動に少しでもお役に立ちたいとの思いから、寄付を決めました。

現在の赤十字とのかかわり

昨年度の寄付の後、日本赤十字社の活動に対して1回だけの寄付に留まらず、継続的に支援ができないかお考えていたところ、赤十字の担当者から売り上げの一部を寄付できる寄付つき自動販売機のシステムを紹介いただき、社内に設置している自販機を寄付付きに変更しました。社員を始めとする利用者が飲料を購入することを通じて継続的に寄付を行うことができるうえ、導入した災害対応型自動販売機は、災害発生時に飲料を支援物資として取り出すことができるため、災害対策用の備蓄飲料にもなります。日本赤十字社の活動も表示されているので、お客様にも弊社の社会貢献活動を理解していただくうえで大変意義のあるものと考えています。

寄付つきの災害対応型自動販売機

また、ケガや急病に対する応急手当やAEDの使い方などを学べる救急法短期講習を愛知県支部にお願いしています。普段からAEDの存在や使用方法を知っておくことで社員一人ひとりがいざという時に命を救えるよう、社内の安全研修の一環で行うことにしています。

今後の赤十字への期待

未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見いだせない状況ですので、今後も赤十字病院が地域の中核病院として活躍することを期待しています。

また、新型コロナウイルス感染症対策だけでなく、豪雨災害のような大規模災害が全国各地で毎年発生しています。こうした災害に対し献身的に支援活動を行っている赤十字の事業に少しでもお役に立てば、という思いから令和3年度も寄付を決めました。今後も災害発生時の医療救護活動等に引き続き尽力していただき、地域の人々の命と健康を守る活動をお願いしたいです。

TOPICS トピックス　活動やイベントをご報告します

NEWS

令和3年10月27日（水）「献血ルーム フォレスト」オープン！

～イオンモール Nagoya Noritake Gardenに新しい献血ルームを開所します～

愛知県名古屋市西区則武新町三丁目1番17号
イオンモール Nagoya Noritake Garden 3階
受付時間／10:00～17:00

近年、血漿分画製剤の一つで免疫グロブリン製剤の需要が増加傾向にあり、その原料となる血液の成分（血漿）が必要となっております。このような背景の中、愛知県内初となる「成分献血」を中心とした「予約専用」の「献血ルームフォレスト」が「イオンモール Nagoya Noritake Garden」の3階に、このたび新たにオープンします！コロナ禍において新たな献血ルームを開所するにあたり、より安心・安全な環境で献血いただけるよう、愛知県民の皆様に親しまれるよう努めてまいります。

予約開始日などの詳細は
血液センターホームページにて
お知らせします

NEWS

自宅から学べる幼児安全法

オンラインでの幼児安全法短期講習を開始しました

日本赤十字社愛知県支部では、前号で特集した救急法短期講習に加え、令和３年10月からは新たに幼児安全法短期講習でもオンライン講習を始めます。

オンライン講習はインターネット接続環境があればご自宅からパソコンやタブレットを使用して講習を受けることができるので、外出をなるべく避けたい方や家事や育児で家を空けられない方も参加しやすくなっています。

愛知県支部
WEBサイト

今後の日程の確認や申し込みは、愛知県支部WEBサイトから行うことができます。

REPORT

赤十字救護班要員養成研修を実施

コロナ禍でも救護活動を続けていくために

日本赤十字社愛知県支部では、6月から8月にかけて救護班要員養成研修を行いました。

県内の各赤十字施設での救護員研修を修了した医師や看護師、事務職員等を対象としたもので、救護所での診療や避難所巡回診療のシミュレーションなどを通じて災害時の迅速な救護活動に必要な知識や技術を習得することを目的に、感染対策を徹底して開催しました。

今後も日本赤十字社愛知県支部は、感染症まん延下でも万全の態勢で救護活動が行えるよう体制を整えていきます。

災害時の診療シミュレーションの様子

NEWS

「空は世界へつづいてる」
―海外の機関紙にみる青少年赤十字の活動―

博物館明治村で、青少年赤十字のミニ展示を行います

博物館明治村では10月16日（土）から12月12日（日）まで、村内の「三重県庁舎」において、青少年赤十字のミニ展示を行います。

青少年赤十字は長い歴史を持ち、創設当初から日本はもちろん世界中で活動が行われています。今回のミニ展示では、これまでに世界各国から日本赤十字社へ送られてきた青少年赤十字機関紙の展示やクイズなどを通じて、各国のお国柄や行われてきた活動を分かりやすく紹介します。

ぜひこの機会に世界の青少年赤十字の活動に触れていただければと思います。

左／1933年2月のアメリカの青少年赤十字機関紙の表紙です。様々な国の青少年赤十字機関紙を展示します。
下／展示会場「三重県庁舎」から400mほど離れた場所には「日本赤十字社中央病院病棟」が移築されています。

クローズアップ
CLOSE UP

青少年赤十字 コロナ禍2年目の試み

青少年赤十字では、例年夏休み期間中に学校の枠を超えた取り組みが行われます。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年から多くの取り組みが中止を余儀なくされています。

コロナ禍2年目となる今年の夏は、開催方法を工夫し、感染対策を徹底することで、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除された時期に一部の取り組みを行うことができました。

今回はこの夏の青少年赤十字の取り組みから、「名古屋地区リーダーシップ・トレーニングセンター」と、朝日新聞名古屋本社と日本赤十字社愛知県支部共同で開催した「子ども新聞プロジェクト２０２１」を紹介します。

青少年赤十字とは？

青少年赤十字は児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために活動し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。

日本では1922年（大正11年）に活動が始まり、来年100周年を迎えます。現在、愛知県内では1000校を超える幼稚園・保育所・小学校・中学校・高校・特別支援学校が青少年赤十字に加盟しており、全国的にみても活発に活動が行われています。

01 名古屋地区リーダーシップ・トレーニングセンター

～オンラインで4校をつなぐ初の試み～

リーダーとして必要な自主・自律の精神を身につけ、赤十字に関する知識や技術を集中的に学習し、生きる力を養う場であるリーダーシップ・トレーニングセンター。トレセンの略称で知られる青少年赤十字の代表的な取り組みの一つです。

今夏も県内各地域で予定されていた全てを開催することはできませんでしたが、感染対策を徹底のうえ一部については開催することができました。

その中でも名古屋地区では、普段会わない人との対面・接触を避ける観点から、小中学校４校をオンラインでつなぎ、子どもたちは自分たちの通う小中学校から参加するかたちでの開催となりました。

従来の１カ所に集まって開催する形式とは違い、ビデオ会議システムを使った交流になり、予定や諸連絡が貼り出される掲示板もＷＥＢ上に用意されるなど、準備してきた先生方にとっても初めての試みでした。

午前は、オリエンテーションで赤十字や青少年赤十字について学んだ後、赤十字のオンライン講習スタジオと小中学校を結び救急法の講習を行いました。職員からの講義と、訓練用の人形やAEDを使った実践を通じ心肺蘇生法を真剣に学んでいました。

午後は、他の小中学校の参加者とHUG（避難所運営ゲーム）を行いました。避難してきた人たちの家族構成や要望といった情報がカードで提示され、その情報を基に避難所の運営を行うゲームです。何が必要とされているか気づき、どうしたらよいか考えることが求められます。

他の学校の参加者たちとは画面越しでのやりとりでしたが、参加者たちはビデオ会議システムの使い方をすぐに覚え、学校の枠も、小学生・中学生の枠も超えて活発に交流しました。

名古屋地区トレセン センター長 深田陽一郎 先生（名古屋市立山王中学校長）にお話を伺いました

子どもたちにとってトレセンに参加できる機会は年に１回ですので、参加できるタイミングが今年しかない、という子もなかにはいます。今後につなげるためにも、スタッフの先生方と開催できる方法を模索し、オンラインを活用して開催することにしました。

画面越しだと互いにニュアンスが伝わりにくいので対面よりコミュニケーションし難いのでは、と心配していましたが、子どもたちが活発にディスカッションをしている様子をみて、制約の多いオンラインでもできることはあると実感しました。

今のような状況はまだ続くと思いますが、スタッフの先生方と知恵を出し合い、青少年赤十字の活動を続けていきたいです。

02 子ども新聞プロジェクト2021

～リモート取材と県内を巡る取材で新聞づくりに挑む～

朝日新聞名古屋本社と日本赤十字社愛知県支部が共同で開催している子ども新聞プロジェクト。東日本大震災から得た教訓を基に「気づき・考え・実行する」ことの大切さを後世に伝えるプロジェクトとして始まり、一昨年までは東日本大震災を始めとする各地の被災地を訪ね、被害の様子や復興していく様子を小学６年生の子どもたちが「子ども記者」として取材してきました。

昨年は中止を余儀なくされましたが、今年は県をまたぐ移動を避け、リモートでのインタビューと県内での現地取材に切り替え開催することになりました。

１日目は、朝日新聞名古屋本社の記者から記事の書き方を教わり、関西大学の奥村与志弘准教授から東日本大震災に関する講義を受け、リモートのインタビューに挑みました。

（提供：朝日新聞名古屋本社）

インタビューに応じていただいたのは、宮城県名取市の耕谷アグリサービスさん。東日本大震災で被災し、営農できない地域の農家から耕作地を引き受け、地域の農業を守る活動をしてきました。子ども記者たちは初の取材に緊張しつつも、積極的に質問していました。

２日目の県内取材では、幸田町・豊川市・田原市を巡り、過去の大地震の跡や現在の防災の取り組みについて見学したり地域の方々からお話を伺ったりしました。

1／幸田町では昭和20年の三河地震の影響で生じた深溝断層（ふこうづだんそう）を見学しました。
2・3／豊川市ではVR（拡張現実）やプロジェクションマッピングを駆使して地域で起こる可能性のある災害と予想される被害を視覚的に学べる豊川市防災センターを訪ね、愛知県内で発生しうる災害の脅威を体験しました。

こうして子ども記者たちが書き上げた子ども新聞は、愛知県内の青少年赤十字加盟小学校に配布されたほか、愛知県支部ホームページでも公開予定です。

4・5／田原市では、津波発生時緊急避難先となる津波避難マウンドの見学や地域の方から防災への取り組みについてお話を伺うなど、地域の防災について取材しました。
6／3日目、朝日新聞記者からレクチャーを受け、取材の成果を記事にまとめました。（提供：朝日新聞名古屋本社）